西久保八幡通信

謹賀新年

明けましておめでとうございます。

日頃より当八幡神社の諸般につきましては種々ご高配にあずかり誠にありがとうございます。

昨年は我が国の成り立ちに大いに関わる出雲大社、伊勢の神宮で式年遷宮が恙なく厳粛のうちにも盛大に斎行されました。

遷宮を繰り返すことにより神々は若返り、日本人の心にその伝統や精神が刻み込まれて行くのだと思います。遷宮後最初の新年を迎え、御神威の更なる発揚を期するところでございます。

また、平成三十二年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定しました。前回昭和三十九年開催の東京オリンピックは戦後復興、経済成長の象徴となりました。式年遷宮などにより伝統文化が見つめ直されている今、日本人としての誇りを持ち、忘れられつつある「日本の精神」復興の象徴となることを願う次第です。

本年は甲午歳となります。馬（午）は太古から人間の生活に必要な生き物であると同時に神聖なものとして大切にされてきました。生きた馬の代わりに馬の絵を神社に奉納したことから「絵馬」が生まれたといわれています。

神馬が多くの幸福を乗せて千里の彼方から皆様方のもとに訪れ、全てがウマく行く年となりますことをご祈念申し上げます。

平成二十六年一月

干支のはなし

「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」といえば十二支ですね。年始には話題に上ることも多いと思います。今では「干支」いえばこの十二支だけを指して言われることが多いのですが、実は「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の十干を組み合わせたものを「干支」というのが正しいそうです。六十回周期を数えるときに使われた言葉（数詞）で、年月日や時間、方位、角度を表すときに使われてきました。

十干の「干」の語源は幹で、この十干を万物は木・火・土・金・水の五種類の元素からなるという五行思想に当てはめ、更に陽をあらわす「兄」と陰をあらわす「弟」を順に組み合わせ次のようによびました。

甲（木の兄＝きのえ）
乙（木の弟＝きのと）
丙（火の兄＝ひのえ）
丁（火の弟＝ひのと）
戊（土の兄＝つちのえ）
己（土の弟＝つちのと）
庚（金の兄＝かのえ）
辛（金の弟＝かのと）
壬（水の兄＝みずのえ）
癸（水の弟＝みずのと）

十二支の「支」は幹の枝をあらわし、古代中国では天球を十二に分割し、それぞれの方角の記号として「子丑寅・・・」を割り振りました。

この「十二支」と「十干」を組み合わせると六十の組み合わせになります。これを「干支」（六十干支・十干十二支とも）といいます。つまり干支の一巡には六十年かかることになります。「還暦」のお祝いがありますが、これは干支が元に戻ることからもう一度生まれ変わって出直すという意味で行われるお祝いです。

また、干支に関わることで最近よく耳にする言葉に「恵方」があります。これは陰陽道でその年の干支によって定められた最も幸運な方角のことで、歳神様（歳徳神）がお正月にその方角から福徳とともに訪れるといわれています。恵方はその年の十干により決まり、二十四に分けられた方位（二十四山）のうち四つの方位を巡ります。

甲・己の年・・・・・・・・・・・甲の方位
乙・庚の年・・・・・・・・・・・庚の方位
丙・辛・戊・癸の年・・・丙の方位
丁・壬の年・・・・・・・・・・・壬の方位

今年は甲午の年となりますので、恵方は「甲」の方位になります。方位磁石と中央の方位図を使って確かめて下さい。

ではなぜ十二支に動物が当てられたのでしょうか。昔話に次のようなものがあります。

むかしむかし、年の暮に神様が「一月一日の朝、新年の挨拶にいらっしゃい。一番から十二番までの者たちは、順番にそれぞれ一年間交代で、動物の大将にしてあげましょう。」

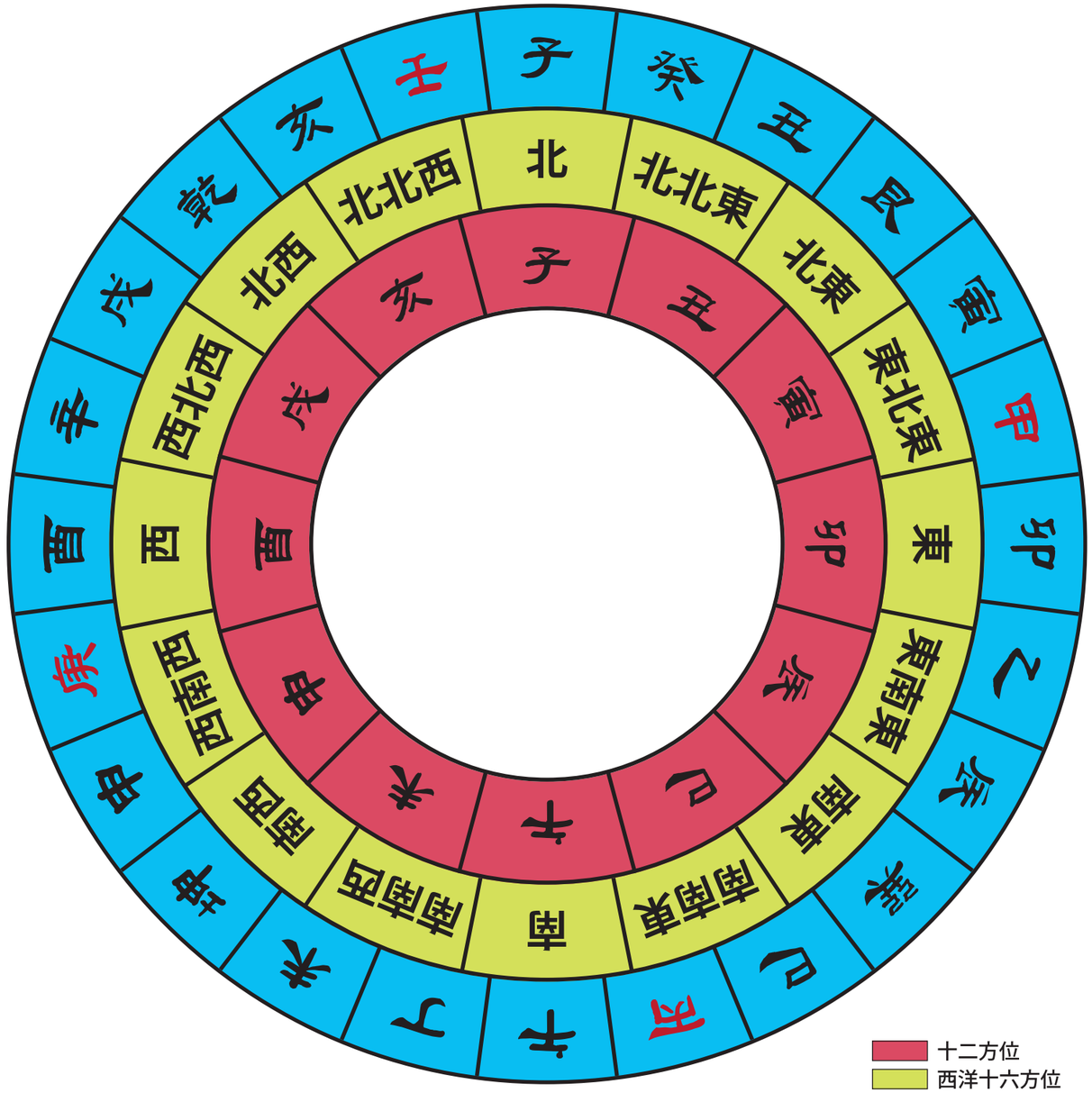
それを聞いた動物たちはそれぞれに準備を始めましたが、ネコだけはそのはなしを聞いていませんでしたが、ネズミに「一月二日」とうそを伝えられてしまいます。元日になると、牛は「歩くのが遅いので、一足早く出かけます」と早くから身支度をして、夜のうちに出発しました。この様子を見ていたネズミは、牛の背中に飛び乗り潜り込んだのです。そんなこととは知らずに、牛は夜通し歩いて神様の御殿に到着しましたが、門はまだ閉まっていて、誰も来ていませんでした。その頃他の動物たちも一斉に御殿を目指していましたが、ネズミにだまされたネコは出発すらしていません。犬と猿は仲良く向かっていたのですが、最後には大げんかを始めてしまい、鶏に仲を取り持ってもらいました。

やがて開門の時間となりました。門が開くと同時に牛に隠れていたネズミが飛び出し、一番になりました。続いて牛、虎、兎、竜、蛇、馬、羊と到着し、猿のあとにけんかの仲裁に入った鶏、犬と続き最後に猪が到着しました。

動物たちが神様とお正月のお祝いをしているとネズミにだまされたネコがやってきて、たいそう怒ってネズミを追い回したそうです。

このような昔話は全国各地にあるようです。ネコがネズミを追い回したり、犬と猿が仲が悪いというはなしもここから生まれたのかもしれません。

それではよい午年をお過ごし下さい。



午年の出来事・午年生まれの有名人

平成十四年（二〇〇二）
ユーロ紙幣・硬貨の流通開始
田中眞紀子外相更迭
ソルトレイクシティオリンピック
小泉純一郎首相靖國神社参拝
新首相官邸会館
ソニーベータマックス生産終了発表
小泉首相北朝鮮初訪問
小柴昌俊・田中耕一ノーベル賞受賞
長嶋茂雄日本代表監督就任

平成二年（一九九〇）
勝新太郎ハワイで逮捕
マンデラ氏二十七年ぶりに釈放
ローリングストーンズ初来日公演
ポール マッカートニー初来日公演
ワールドカップイタリア大会
礼宮文仁親王が川嶋紀子と結婚
東ドイツと西ドイツが経済統合
今上陛下即位の礼・大嘗祭
《誕生》三浦春馬・浅田真央

昭和五十三年（一九七八）
『ザ・ベストテン』放送開始
キャンディーズ解散
新東京国際空港（成田）開港
サザンオールスターズデビュー
フォーリーブス解散
西武ライオンズ誕生
《誕生》浜口京子・雛形あきこ・菊川怜・ＤＡＩＧＯ・中村俊輔・ＭＩＳＩＡ・長谷川京子・岩崎恭子・澤穂希・浜崎あゆみ・長瀬智也

昭和四十一年（一九六六）
日本でメートル法完全施行
銀座ソニービルオープン
『笑点』放送開始
ビートルズ来日
《誕生》財前直見・石黒賢・小泉今日子・薬丸裕英・今田耕司・ＲＩＫＡＣＯ・斉藤和義・石川秀美・植草克秀・スガシカオ・鈴木保奈美・小谷実可子・文仁親王妃紀子・東山紀之・キャメロン英首相・江角マキコ・国生さゆり・高井麻巳子

昭和二十九年（一九五四）
ジョーディマジオ・モンロー夫妻来日
第五福龍丸水爆実験で被爆
《誕生》中畑清・松任谷由実・ジョン トラボルタ・カルロス ゴーン・林真理子・デーブ スペクター・壇ふみ・清水アキラ・南沙織・安倍晋三・高畑淳子・片岡鶴太郎・高円宮憲仁親王

昭和十七年（一九四二）
東京に初の空襲警報発令
ミッドウェー海戦
アンネ フランクの日記を始める
《誕生》小泉純一郎・嵐山光三郎・モハメドアリ・林与一・近藤正臣・加納典明・地井武男・ささきいさお・松方弘樹・中尾彬・青木功・十朱幸代

昭和五年（一九三〇）
銀座三越開店
フーバーダム建設開始
第一回サッカーワールドカップ開催
浅間山爆発（東京まで降灰）
ジーン ハックマン・ハナ肇・スティーブ マックイーン・岸田今日子・高島忠夫・ニール アームストロング・西村京太郎

大正七年（一九一八）
松下電器産業設立
ロベルト コッホが結核菌を発見
日本銀行開業
富山県で米騒動
日本がシベリア出兵
ソビエトがモスクワを首都とする

明治三年（一八七〇年）
大教宣布の詔
日章旗が国旗となる
横浜～新橋間の鉄道着工
普仏戦争
第一次大戦が終結
スペインかぜ大流行
《誕生》田中角栄・中曽根康弘・鳩山威一郎・高峰三枝子

明治三十九年（一九〇六）
伊藤博文韓国統監府初代統監に就任
『大日本史』の編纂完了

安政五年（一八五八）
ルルドで聖母マリアが出現
日米修好通商条約調印
第十三代将軍徳川家定薨去
安政の大獄
第十四代将軍徳川家茂就任
福澤諭吉が蘭学塾創立

明治二十七年（一八九四）
日清戦争

明治十五年（一八八二）
サグラダ・ファミリア教会建設開始

平成２６年の厄年

	前厄	本厄	後厄
男性	24才（未）平成3年生	25才（午）平成2年生	26才（巳）平成元年生
男性	41才（寅）昭和49年生	42才（丑）昭和48年生	43才（子）昭和47年生
男性	60才（未）昭和30年生	61才（午）昭和29年生	62才（巳）昭和28年生
女性	18才（丑）平成9年生	19才（子）平成8年生	20才（亥）平成7年生
女性	32才（亥）昭和58年生	33才（戌）昭和57年生	34才（酉）昭和56年生
女性	36才（未）昭和54年生	37才（午）昭和53年生	38才（巳）昭和52年生

※年齢は数え年です

西久保八幡通信　発行日　平成二十六年一月一日
発行者　八幡神社　東京都港区虎ノ門五丁目十番十四号　http://www.hachimanjinja.or.jp